

丹波康賴者、志拏直五世之孫、始賜丹波宿禰、丹家醫流之祖、始被聽昇殿、其子成雅、其次仲政、其次道廣、此間家系斷絶、世々住丹波、後到京師、住千本、到長元世、俗號千本典藥、其子長清、其次宗圓、其子長久、其次長慶、其子長昌、其次宗仙、曾應北條早雲之招、始赴關東、其子長榮、其次長傳、始仕家康公、其子正玉、其次號安栖、又稱養岳、叙法印、一說其家系出自坂上田村丸之後、故氏稱田村云々、子孫到于今、

〔明良帶錄世職〕典藥頭

從五位下諸大夫なり、御三代之頃は、半井驢庵、今大路道三、何れも醫術に達したり、○中略此家は、京都より來りたる家にて、幼年なれば、寄合醫師の列に入りて、家業を習熟す、

〔本朝醫考中〕和氣氏○中略

明英 明親之子也、叙正三位、任宮内少輔、兼修理大夫、被聽院內昇殿、剃髮號壽林、自號閑嘯軒、且半井之稱、始于明英、

〔半日閑話六〕京島丸北正親町北、今の施藥院の地に、半井宅有、大なる井有、半を製藥の料に用ひ、半を雜用に充ふ、因て半井と稱す、

〔醫者談義四〕至賤中有殊常功談義

昔元和年中、雲上の御歴々、御産の御難産にて、澀滯せさせたまひけるに、曲直瀬何がし伏龍肝を進じて、立所に御産平らか成しかば、此賞によりて、曲直瀬を改て、別に家名をたまはりしとなり、雲上の御歴々にてましませば、關東よりは、道三家、玄朔、玄鑑父子、半井家、久志本家、其外名ある御醫者、○中略會合の中に、曲直瀬衆醫を抽で、父玄朔にも憚ず、伏龍肝と申上けるは、まことに獨歩の才、醫中の龍とも云べし、

〔本朝醫考中〕上池院

其先出自源賴光五世之孫、充角、充角號坂三郎、産于和州、其後家系斷絶、而後有九佛嗣焉、